



横浜 コーディネーター キャンパス

2022報告書



アクションポート
YOKOHAMA

まちにたくさんの主人公を！

横浜 コーディネーター キャンパス

とは？

横浜市内の若者×地域のコーディネートに関わる公共施設やNPOのコーディネーターが分野横断的につながるプラットフォームです。若者を軸として、様々な人が活躍できる地域土壌を耕していくこと、そして、若者と地域をつなぐコーディネーターの認知度と価値を高めることを目指します。

活動内容



情報や事例の蓄積、共有



学び合いの場づくり



実践と発信の場づくり

若者と共に活動したいと思っても、情報や先行事例がないとなかなか一歩踏み出せないもの。キャンパスでは横浜市内を中心に、若者×地域をつなぐ事例や情報を蓄積し、共有できるプラットフォームを作ります。

若者×地域の様々なプレイヤーをつなぐノウハウや事例を持ち寄り、コーディネーター同士が学び合う場を作ります。社会が変わっていく中で、分野やエリアを越えてコーディネーター同士が繋がりを研鑽できる場は非常に大事です。

若者×地域の活動を実践しながら、その中で出てきた価値や課題を発信していきます。1団体のコーディネーターでは解決できない課題も、みんなで解決していきましょう。

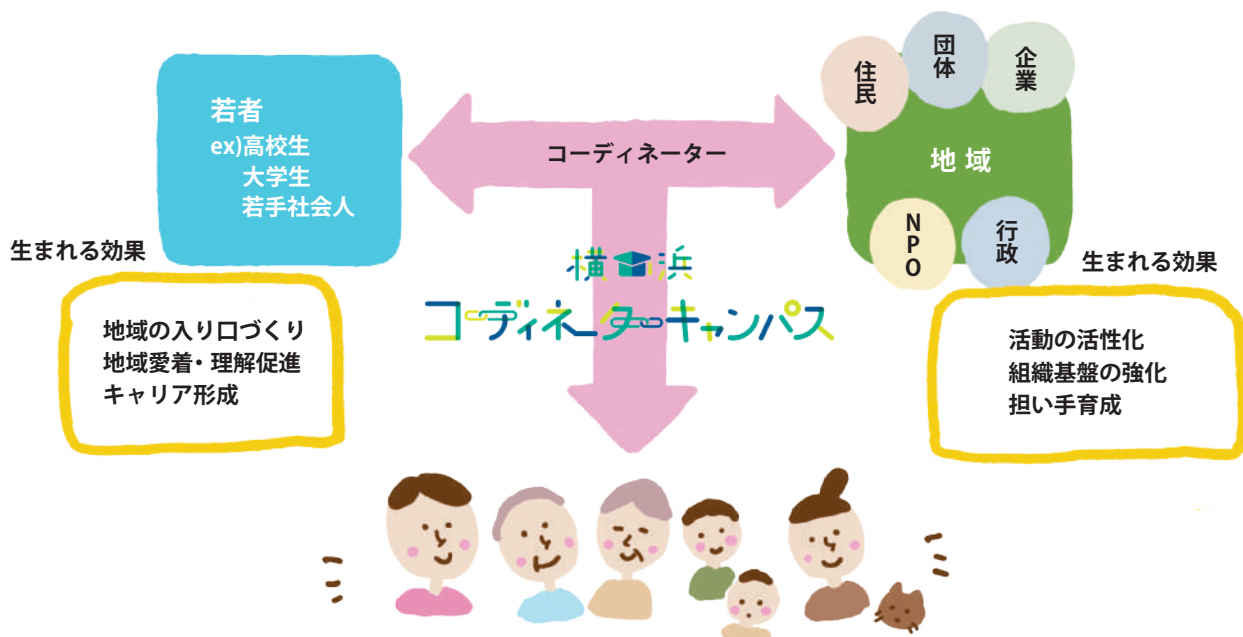
コーディネーターキャンパスが始まった背景

地域への若者参加のニーズは高いが、なかなか広がりにくい現状

「若者と地域がつながる機会やきっかけ不足」「活動事例やノウハウの情報共有不足」など色々挙げられますが、若者と地域、双方の思いを受け止めるコーディネーターが不可欠



「コーディネーターキャンパス」をコーディネーター同士がつながるプラットフォームに！



効果的なコーディネートをすることで、若者×地域のマッチングや活動が進む。

➡ 若者を軸として、様々な人が活躍できる横浜へ

コーディネーターキャンパスキックオフイベント



コーディネーターキャンパスキックオフイベントには、

参加者 **78** 名

多種多様なコーディネーターが参加してくれました。

<参加者内訳>

地域ケアプラザ(地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーター)、大学生、大学教員、NPO、地域子育て支援拠点、社会福祉協議会、市民活動支援センター、区民文化センター、横浜市職員など

参加者のうち、既に若者と活動しているのは **32.6** % (アンケート回答者 15 名 / 46 名)

関心はあるが活動できていないのは **67.4** % (アンケート回答者 31 名 / 46 名) でした。

→若者との活動に興味はあるコーディネーターは多いですが、
実際には活動できていないことも多いのではないかと。

キックオフ会議で紹介された 6 事例



地域ケアプラザが学生と地域をつなぎ、商店街・自治会と連携するまちづくり事例
(まち×学生プロジェクト)



市民活動センターが大学生インターンを受け入れ、定例活動・イベントを行う事例
(ほどがや市民活動センター「アワーズ」)



青少年育成センターの声かけで、若者が地域団体取材し発信する事例
(横浜市青少年育成センター)



多世代・多文化をキーワードにするNPOで、SDGsの視点で若者参画型で活動する事例
(野毛坂グローバル)



社会福祉協議会が中心となり、企業や団体と連携した課題解決の現場に学生が関わる事例
(横浜市社会福祉協議会「ヨコ寄付」)



青少年の地域活動拠点で中高生のまちづくりプロジェクトを大学生がサポートする事例
(あおばコミュニティ・テラス)

コーディネーターがネットワークに期待することとは？

ネットワークに期待すること(複数選択可能)
キックオフアンケートより

	(人)
コーディネーター同士の情報交換	27
マッチングのノウハウやポイントの共有	26
若者×地域の実践・個別サポート(相談窓口)	14
講師を招いた勉強会や議論	9
その他	6

参加したコーディネーターからの声



特に若者に地域に目を向けてもらえるような関わりやきっかけをどのように生み出していけば良いのかということについて悩みを持っています。



今の学生や若者は何に関心があるのか若者の傾向について知る機会や、若者が地域に参加することでどのような効果や意義があるのかについては是非皆さんと議論していきたいです。

横浜市内において若者×地域の活動に関心を持つ多種多様なコーディネーターが存在していることや、関心はあるもののどのように活動を進めていけば良いのか悩みを抱える方が多数いることが分かりました。こうした現状を乗り越えていくため、今後の横浜コーディネーターキャンパスでは①活動の事例やノウハウの共有、②活動事例を増やすための伴走支援などに注力をした運営をしていきたいと考えています。

磯子区 地域ケアプラザモデルづくり（伴走企画）

磯子区では5つの地域ケアプラザの地域活動交流コーディネーターの有志の皆さんと連携し、「磯子まちの広報部」の企画を実施しました。

事業名：磯子まちの広報部

活動期間：2022年9月～2023年3月

企画メンバー：磯子区社会福祉協議会、横浜市滝頭地域ケアプラザ、横浜市磯子地域ケアプラザ、横浜市屏風ヶ浦地域ケアプラザ、横浜市新杉田地域ケアプラザ、横浜市洋光台地域ケアプラザ

参加学生：9名（区内在住 3名）

STEP ① 企画会議

- ・目的、ターゲット決め
- ・広報チラシ作成



まずどんな学生を巻き込み、どんな成果を生み出したのか、コーディネーターの皆さんと議論をするところから始めました。

磯子は区内に大学がないものの、若い世代に関わりたいという声が存在するというをはじめ、コーディネーターの皆さんから日々の現場で掴んでいる地域の実情を伺いました。アクションボート横浜から「学生の現状や、学生が参加しやすい企画づくりのポイント」をお伝えし、議論の結果「福祉×ライティング」が企画の軸になりました。

様々な観点から議論を重ね学生広報用チラシが完成！

STEP ② 広報

広報



▲横浜国立大学ボランティアセンターへ訪問



▲神奈川大学での授業登壇



広報については、磯子区の沿線沿いの大学が参加しやすいのではないかと考え、アクションボート横浜の調整を通じて神奈川大学・横浜国立大学の授業に直接伺い、広報を行いました。多様な学生に参加してもらえるように福祉の分野に限らない学部・学生へのアプローチをしました。

コーディネーターの声「企画の上で大事にした点・うまくいった点・苦労した点とは？」



コーディネーターの皆様

学生との関わりに慣れているコーディネーターが少なく、企画スタート時からチーム全体で悪戦苦闘しながら進めてきました。ジェネレーションギャップを感じることもあり、コミュニケーションの取り方に苦労しました。お互いの距離を近づける工夫の一つとして、おにぎりやお菓子を定例会議に用意し共通の話題を作り話すきっかけができました。学生の気持ちに寄り添うことも意識していましたが、学生一人ひとりの良さや思いを引き出しきれなかったと考えており、個々の思いを丁寧にくみ取るための面談等を今後は取り入れることも検討していきたいと思ひます。

STEP ③ キックオフ交流会 11/12

11月12日(土) 16:00 ~ 18:00

@ 新杉田交流スペース

広報の結果、学生9名が参加！



▲タウンニュースさんによるライティング講座



▲おにぎり交流会



▲学生主導による企画会議

キックオフ交流会を開催しました。アイスブレイク・自己紹介をした後に、タウンニュースさんによるライティング講座、学生会議、おにぎり交流会を実施し、初対面の皆さんとコーディネーターが顔合わせをすることができました。当日の様子はタウンニュースにも掲載されました。

④ 定例会議の開催

⑤ 調整は slack で

⑥ 取材実施 (1月 - 2月)



▲取材は学生とコーディネーターがペアとなり企画の調整を実施



▲全体での情報交換の「slack」を活用



▲各チームごとに7館のケアプラザを取材

⑦ 3月記事完成

完成した記事は「note」にて見る事ができる予定です！

学生の声「企画に参加してみて・・・」



まちの広報部学生ライター
東京女子大学 3年
坪井千佳さん

今回の活動を通じて新たな仲間とともに地域のケアプラザについて深く学べたことが良かったと思います。その中でもケアプラザごとに特色があることや「地域密着」にも様々なアプローチがあることを取材から学ぶことができました。取材や執筆作業を行ううえで、学生によるケアプラザの利用方法や、地域と若者がどのように関わっていくべきなのかを自分たちの目線から検討したため、記事を通じて多くの若者に想いが届くといいなと心より願っています。



まちの広報部学生ライター
武蔵大学 2年
今井 悠さん

ケアプラザの取材を通して、ケアプラザが地域の発展には欠かせない重要な施設であることを実感しました。磯子区の魅力を新たに知ることができ、そしてまだまだ発展の可能性があると感じました。学生という立場で自分が地域のためにできることは何だろうと考えていた時にこの「磯子まちの広報部」の企画に出会いました。今回、少しでも地域の発展のために役立てたなら嬉しいです。今後も自分の住んでいる地域を大切にし、自分ができていることを探して様々なことに挑戦していきたいです。

コーディネーターの声「企画の成果・今後の抱負とは？」



コーディネーターの皆様

ライター活動を軸に参加募集をしたことで福祉と縁のない学生の参加も多く、活動を通じて地域ケアプラザや地域活動について知ってもらう機会となりました。これまで使用したことのないITツール (note や slack) を知り、使用するきっかけとなり、今後の業務にも活かしていきたいと思っています。今後も地元 (地域) に興味を持ち好きになるきっかけとなるよう取組を進めていきたいと考えています。

5つの施設のコーディネーターの有志の皆さんと連携し、「むかしあそびとだがしや」企画を実施しました。

事業名: むかしあそびとだがしや

実施日: 2023年2月4日(土) 12:00~14:30

会場: 上菅田地域ケアプラザ

企画メンバー: 保土ケ谷区社会福祉協議会、横浜市岩崎地域ケアプラザ、上菅田地域ケアプラザ、横浜市川島地域ケアプラザ、ほどがや市民活動センターアワーズ 協力: 神奈川県

参加学生: 14名

STEP ①企画

- ・目的、ターゲット決め
- ・広報チラシ作成



まずどんな学生を巻き込み、企画を作りたいか議論しました。当初、まずは学生が何がしたいのか要望を聞きたいという話が出ましたが、その内容で学生を集めるのはなかなか難しく、イベントを実施して、学生の声を集めることにしました。神奈川県から団地活性に関わる声かけもあり、上菅田地域ケアプラザを会場にした昔遊びをする企画に決定。広報がスタートしました。

地域向けのチラシとは別に学生ボランティア募集用のチラシを作成しました！

STEP ②広報

- ・大学での広報



広報については各コーディネーターが持ちうるネットワークやフェリス女学院大学への訪問を通じて学生に周知。時期が大学のテスト期間と重なり苦戦しましたが、なんとか14名学生が集まりました。

◀フェリス女学院大学ボランティアセンター訪問



STEP ③ 2/4 企画開催



企画の成果・難しかった点・今後に活かせる点とは？



川島地域ケアプラザ
コーディネーター 濱田さん

今回、アクションポート横浜（以下 APY）様にサポートしていただき、コーディネーターとして、課題と感じていたつなりの弱い若い世代、特に大学生の皆様と協働することができたことを大変嬉しく感じております。初めての試みの為、多方面への説明や調整は難しい点もありましたが、多くの機関や人が関わることで、それぞれの強みを活かすことができることを実感し、また学生の皆さんの圧倒的なパワーに助けられて、無事に終わることができたと感じております。APY さんに学生さんの考え方、興味、企画の進め方についてアドバイスをいただけて得られた新たな気づきや学びを今後のコーディネーター業務に活かしていきたいと思います。

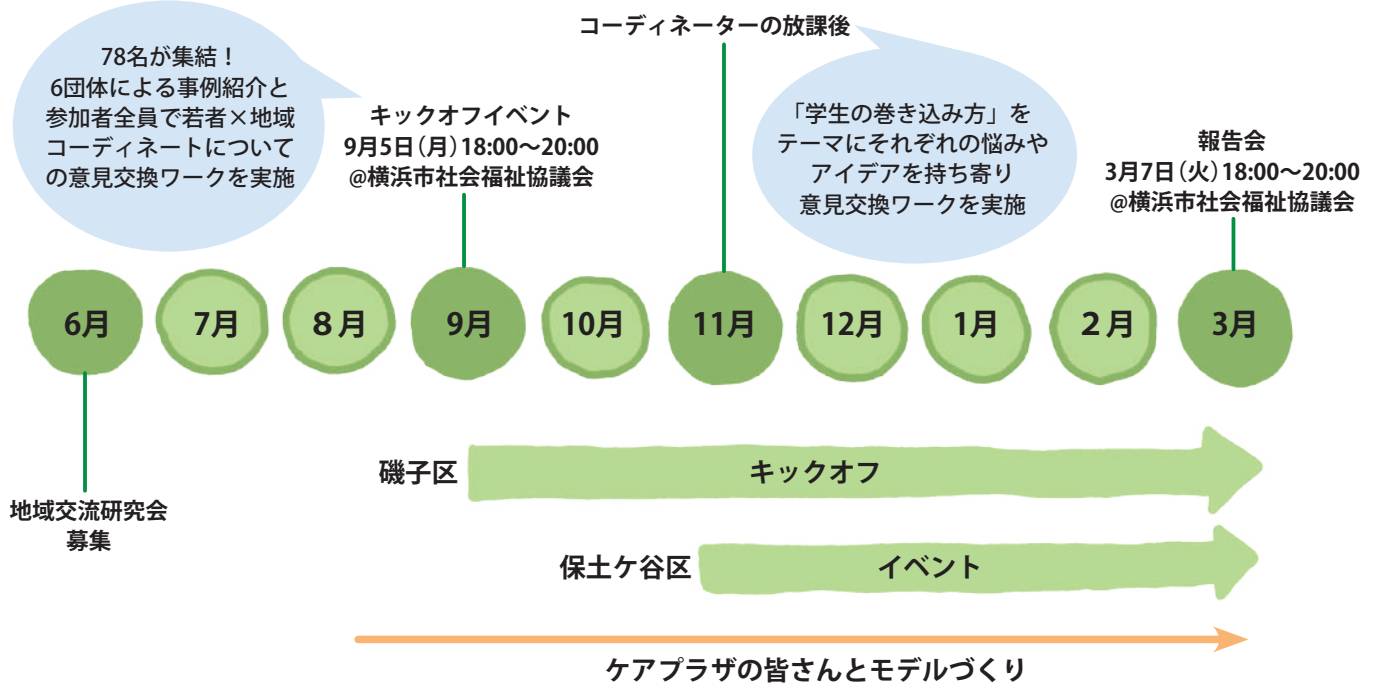
活動の成果・日々の業務に活かせる点・今後の抱負とは？



岩崎地域ケアプラザ
コーディネーター 亀山さん

日常業務の中で学校に何うことはありましたが、学生とつながる機会が少なく、今回の活動は私にとって大変有意義なものとなりました。取組を通じて関係機関や学生・学校、アクションポートの皆様と繋がることができました。大学のボランティアセンターにお邪魔させて頂き、初めて仕組みを理解することができました。また、学生が地域の取組に参加することにより、普段みることのできない表情や姿をみることができました。学生と一緒に取組んだことで、自身のスキルアップ及びつながりという引き出しを増やすことができました。今後はつながりの拡大と新しい取組にチャレンジしていきたいです。

2022年度の取組



多くのコーディネーターに関心の高いテーマであること

まず、9月5日キックオフ会議の開催にあたり「若者×地域」のコーディネートというテーマで横浜市内に向けた発信をしてみました。78名と想定以上の方が集まるなどこのテーマに関して多くの方から高い期待を感じました。何より市内のエリアや分野を問わず、多様な機関のコーディネーターが集まったこと、これは様々な分野において必要とされているテーマといえるのではないのでしょうか。

横浜市内には既に若者たちの活動が展開されているため、どのようにして地域の活動と繋いでいくのか？コーディネーターの皆さんと引き続き連携をしながら、次年度以降も一緒に考えていきたいと思っています。

なぜ学生を受け入れるのか？を考えることが大事

学生との活動を考える時、学生を「どう」巻き込むのかといったノウハウ論になりがちです。しかし、そもそも「なぜ」学生を巻き込むのかということを考えることがポイントです。今回の伴走企画ではそのポイントを意識した2つの企画が生まれました。

一方で、コーディネーターが所属する施設や法人によって「学生×地域」への考え方は様々です。学生を受け入れたいと思っても、組織として動くには「なぜ学生なのか」という点が明確でないと動きづらいという話もありました。

コーディネーターの方々が若者をつなぐ活動をしやすい環境を作るためにも、学生を巻き込む理由を引き続き検討をしていきたいと思っています。

やってみることで分かったことがたくさん！

今年度、実際にやってみることで得られた気づきがたくさんありました。特に伴走企画では若者を受け入れるプロセスで得た学びや気づきは文章にすると月並みですが、実感値としては大きなものでした。

大学の授業に直接訪問し、学生を目の前にして話をしてみること、大学のボランティアセンターのシステムを知ること、学生との連絡には slack というアプリを使ってみること、学生向け企画作りと運営、学生との意見交換、複数の地域ケアプラザの連携などなど。

こうした知見は学生の受入のみならず、日々のコーディネーター業務にもつながるはずです。

キックオフイベントで事例報告してくださった皆さん



ほどがや市民活動センター
北川 有紀



まち×学生プロジェクト
原島 隆行



青少年育成センター
南 太貴



野毛坂グローバル
奥井 利幸



あおばコミュニティ・テラス
大久保 智弘



横浜市社会福祉協議会
舟田 泰久

磯子まちの広報部企画メンバーの皆さん



磯子区社会福祉協議会
西谷 裕美



磯子区社会福祉協議会
藤井 春菜



洋光台地域ケアプラザ
澁谷 葵



屏風ヶ浦地域ケアプラザ
森田ひとみ



新杉田地域ケアプラザ
花坂あかね



磯子地域ケアプラザ
喜多 智子



滝頭地域ケアプラザ
星野 誠司



滝頭地域ケアプラザ
志賀真由子

保土ヶ谷むかしあそびとだがしや企画メンバーの皆さん



岩崎地域ケアプラザ
亀山 貢



岩崎地域ケアプラザ
渡田 妙子



上菅田地域ケアプラザ
馬場 毅



保土ヶ谷区社会福祉協議会
山本 篤



神奈川県土整備局
公共住宅課
君塚 強



神奈川県土整備局
公共住宅課
清水 亨

横浜市社会福祉協議会



今村 后得



日暮 悦明

アクションポート横浜



高城 芳之



細野 瑞希



白井 悠馬

ホームページも
是非ご覧ください。
市内のコーディネーター図鑑や
コーディネート事例
掲載中！



横浜コーディネーターキャンパス 2022 報告書

発行年月：2023年2月

発行者：NPO法人アクションポート横浜

執筆：高城芳之、細野瑞希、白井悠馬

デザイン：認定NPO法人びーのびーの

この冊子は横浜市社会福祉協議会よこはまふれあい助成金の支援により作成しました